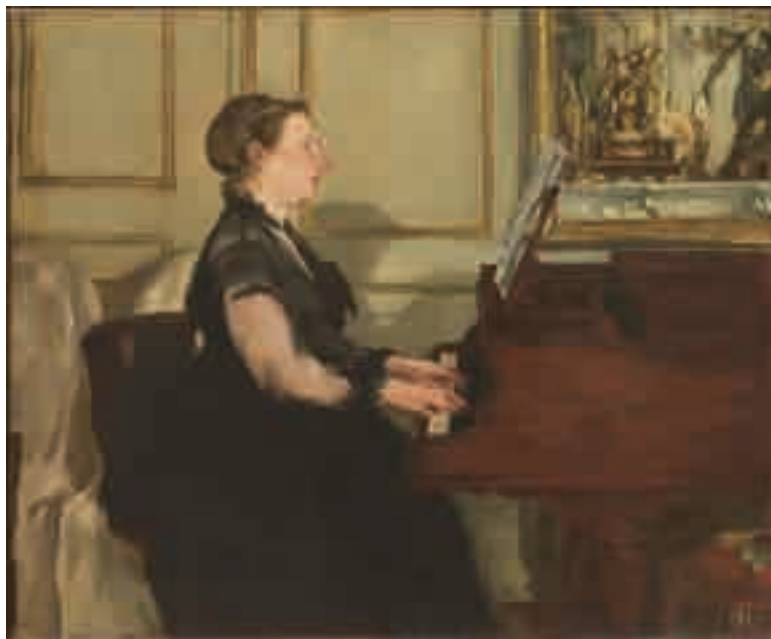


Rohm Music Friends[♯]

ローム ミュージック フレンズ

2020.3 | No.10

—ローム ミュージック ファンデーションの音楽文化支援情報誌—



エドゥアール・マネ [ピアノを弾くマネ夫人] 1868年

Madame Manet at the Piano, 1868 (Peintures)

© RMN-Grand Palais (Musée d'Orsay)/Hervé Lewandowski/AMF/amanaimages



ローム ミュージック ファンデーションは
音楽を通して
豊かな文化をつくることを
目指しています。



Rohm Music Friends

No.10
2020.3

目次

- P03 活躍する奨学生 インタビュー
- P07 ローム クラシック スペシャル
日本フィル コパケン・ワールド
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室・ロームシアター京都公演
- P09 ローム ミュージック フェスティバル2020
- P11 京都・国際音楽学生フェスティバル2020
- P12 ローム ミュージック セミナー2020 宮田大・チェロクラス
- P13 ローム ミュージック フレンズからのお便り
- P19 ローム ミュージック ファンデーション ブログ
奨学生レポートより
- P24 ムービー・アーカイブ
- P25 ロームシアター京都
- P29 奨学生一覧

「ローム ミュージック フレンズ」とは

1991年の創立時以来、若い音楽家育成のためのさまざまな事業で関わった音楽家。
2020年2月現在 計4,624人

※複数の事業で関わった音楽家がいるため、各事業の人数合計とは一致しない。

奨学生	国内外の教育機関で音楽を学ぶ学生への奨学金の給付。	480人
音楽在外研究生	音楽家の一層の研鑽を図るための在外研究を援助。	64人
ミュージックセミナー受講生	ローム ミュージック フレンズが講師となり、世界を舞台に活躍する音楽家の育成を目的としたセミナー。	5人
音楽セミナー受講生	プロの音楽家の育成を目的としたセミナー。 現在までに弦楽器クラス、管楽器クラス、指揮者クラスを実施。	333人
京都・国際音楽学生フェスティバル出演者	国際交流と音楽家の育成を目的として、世界を代表する音楽学校から音楽学生を京都に招いて開催するフェスティバル。	2,625人
小澤征爾音楽塾 塾生	オペラやオーケストラを通じて若手音楽家を育成するプロジェクト。	1,363人



活躍する 奨学生 インタビュー

VOL.10

Hisako Kawamura

河村 尚子 [ピアノ]

2007、2008年度奨学生

給付時の在籍学校:

ハノーファー音楽演劇大学



© Marco Borggreve

Profile

ミュンヘン国際コンクール第2位、クララ・ハスキル国際コンクール優勝。ドイツを拠点に、ウィーン響、バイエルン放送響などにソリストして迎えられ、室内楽でもカーネギーホールなどで演奏。日本ではP. ヤルヴィ指揮NHK響など国内主要オーケストラと共演を重ねる傍ら、ヤノフスキ指揮ベルリン放送響、ピエロフラヴェク指揮チェコ・フィル等の日本ツアーに参加。文化庁芸術選奨文部科学大臣新人賞ほか受賞も多数。主なCDに、2019年10月リリースの、「熱情」[ワルトシュタイン]を含むベートーヴェンのピアノ・ソナタ集、「ラフマニノフ: ピアノ協奏曲第2番&チェロ・ソナタ」など(RCA Red Seal)。2019年秋公開の映画『蜜蜂と遠雷』(恩田陸原作)では主役・栄伝亜夜のピアノ演奏を担当し、その音楽を集めた「河村尚子plays栄伝亜夜」もリリースされている。現在、ドイツのフォルクヴァング芸術大学教授。

【オフィシャルHP】 <http://www.hisakokawamura.com/>



2019年に日本デビュー15周年を迎えられたピアニスト河村尚子さん。音楽との出会いから奨学生時代、現在の活動までさまざまなお話をうかがってきました。

— 音楽との出会いピアノを始められたきっかけは？

私の兄と姉がピアノを弾いていたため、自宅にピアノがあったことが音楽との出会いです。彼らが毎週通っていたレッスンに、飴などのお菓子をいただくために一緒についていき、そこでピアノにありつきました。

ピアノが大好きだからピアノに向かおうということではなくて、兄も姉も出ている発表会に出ることができたり、拍手したりだとか、そういうことがなんだかすてきなあって思っていました。

— ピアノを始められてすぐにドイツに行かれたそうですね。

5歳でピアノを始めたんですけど、5歳になった8月に家族でドイツのデュッセルドルフという街に引っ越ししました。

ドイツはそんなに便利な国ではないので、不便さがもしかしたら生き延びていく知恵にもなっていたかもしれないですね。それと、やはり外国人として育ったので、それは良い経験だったかなとは思いますがね。



©山本 成雄

— それからはドイツにずっといらっちゃってピアノも続けられたんですね。大学はドイツのハノーファー音楽演劇大学に行かれたということですが、先生で選ばれたのでしょうか。

そうですね。17歳からついていたクライネフ先生というロシア人の先生がいらっちゃって、その方にぜひ学びたいと思ったからです。大学に入ってから生活は、音楽ばかりに身を置いていましたが、苦にはなりません。最初は教育科という課程に入って、教育のことや精神科のこと、いろんなことを学びました。第2楽器としてリコーダーを学んだり、ピアノだけではなかったのか、かえってよかったと思いました。

— ハノーファー音楽演劇大学に在学されているときに奨学生でいらっちゃったんですね。奨学生時代でなにか思い出に残るエピソードやお話がありますか。

2007年の5月から6月にかけてブリュッセルのエリザベート王妃国際音楽コンクールに出場し、9月にクララ・ハスキル国際ピアノコンクールに出場しました。エリザベート王妃国際音楽コンクールでは12人のファイナリストたちが、アカデミーに閉じ込められて食や練習を一緒にして、他の世界とは離れてそこだけの時間を1週間堪能するというものでした。その1週間で1つの現代音楽を学ばなければならなくて、ファイナリストたちが1人でどのくらいの音楽をその間に作り上げられるかという、面白い企画でした。



左／2007年エリザベート王妃国際音楽コンクールのファイナリストたちとファビオラ王妃と。

下／ハノーファーのクライネフ氏宅にて。奥さまのタチアナ・タラソヴァさん、恩師のお母さま、そして私のクラスメイトと。





ローム ミュージック フェスティバル 2019
リレー コンサートCにて

— そのあとクララ・ハスキル国際ピアノコンクールで優勝されましたが、こちら也非常に厳しいコンクールと聞いております。

そうですね。実は2019年のクララ・ハスキル国際ピアノコンクールの審査員にまいりまして、受賞者が無しだったんですね。それだけ優勝する人に対する期待が大きいコンクールなのかと思うのと、これまで受賞してきた人たちの音楽性・パーソナリティ・芸術性というものをとても大切に考えるコンクールなんだなというのは思いましたね。

クララ・ハスキル国際ピアノコンクールを受けたときは、周りの見ている目もありますから毎日緊張していて、その中でも自分のいつもの演奏をしないといけないので、リラックスしようと心がけていました。

— かつてはコンテストとして参加されたコンクールに今度は審査員として参加されたときのお気持ちは。

なんて責任深い仕事をこちらに回してこられたのかと思いましたね。でも審査する人がいなければ次の世代が育たないので、これはやらなくてはいけない仕事なんだとも思いました。私がとても大事にしているのは通ったコンテストではなく、通らなかったコンテストたちとお話することですね。なぜ落ちてしまったのか。やっぱりその事情が知りたいわけですね。それで決して悪い演奏はしてない、もうちょっとここを伸ばしたら良くなるよっていうアドバイスを少しでもできれば良いかなと思っています。優勝できなかった子や次のラウンドに出場できなかった子たちが1番コンクールという場を必要としているんですね。アドバイスを必要としているから。

— 2019年はデビュー15周年ということでベートーヴェンシリーズをされていらっしゃいましたが、ベートーヴェンを選ばれたきっかけというのはなんだったのでしょうか。

きっかけは2つあります。大きく2つありまして、まず自分が教える側になったことです。教えるということは、楽譜を読み取ってどうしてここをこうしないといけないのか、を生徒に説かないといけません。ドイツに長年住んでいても私はドイツ人の先生に師事したことがなかったので、ドイツの音楽の「これ」というものを教わったことがなくて、ずっとスラヴ音楽ばかり学んできたんです。そのため、ドイツ音楽の角、エッジの効いた美しさというのが私には分からなかったんです。でも生徒に教えていくうちに、角々しさも美しさなんだ、これが性格なんだっていうのがだいぶ分かってきて。それに加えてドイツ人との交流も増えてきて、ドイツ音楽が分かってきたということから、ベートーヴェンの音楽、楽譜を読んでいるときに、凄くベートーヴェンを親身に思うようになったんですね。それが1つのきっかけです。もう1つは室内楽を、特にチェロとのデュオを頻繁にしているんですけども、そのデュオをしている間に室内楽というものが、ピアノ音楽につながっている、ピアノ音楽へのヒントにもなっていると気がきました。それで、たくさんベートーヴェンを演奏するなかで、ピアノソナタもチェロソナタみたいに弾いたらいいんだということも分かって、試行錯誤していくうちにどんどん楽しくなっていくということですよ。



上／恩師クライネフ氏と彼のリサイタル後。
右／小林研一郎氏と名古屋での公演後。
小林マエストロは2004年に私の日本デビュー公演を指揮をしてくださった思い出の音楽家です。





©山本 成雄

—2019年4月に我々のROOM ミュージックフェスティバルに出させていただいた際もベートーヴェンを弾いていただきましたが、体力的に全く問題ないのでしょうか。

あまり苦にならなかったです。最初に弾き始めるころというのは、どうやって体力をこの長い時間に分けていいのかわからないので、すごく無理がある弾き方をするんですけども、何回か弾いているうちに力を抜けるところ、力を抜かななくてはならないところ、力を入れなければならぬところというのが分かってきました。それで疲れなくなりました。でも、もちろん体を故障するときもあるので、日々の運動を欠かさないようにしています。

—今後の活動のご予定、挑戦されたいことは。

私が一番大事にしているのがバランスなんです。バランス良く人生を進んでいけたらいいなと思っています。バランスというのは仕事とプライベートとのバランスです。そして音楽活動にしても演奏活動だけではなくて、指導活動も一つの柱としてこれからも続けていきたいですし、演奏活動もソロと室内楽と、両方続けていきたい

です。あとはソロで言いますと、これまで2年間ベートーヴェンをしてきたので、さあ次はどんな作曲家にスポットライトを当てていこうかというなかで、来年リサイタルで取り組むのがモーツァルトとシューベルトとショパンなんです。なのでこれからは多分シューベルトの方にスポットライトが当たるとは思いますね。だから作曲家についていろいろ読んで弾いたりして、ちょっと身近になれば嬉しいですよ。

—最後に音楽家を目指している若者たちに向けてなにかメッセージをお願いします。

失敗はたくさんして欲しいです。私自身も失敗をたくさんしたので、失敗をすることは悪いことではないということが、音楽をするなかで大事なんじゃないかなと思います。特にコンクールでは完璧な演奏を求められてしまうので、失敗をしてはいけないという風に思われがちなんですけれども、でも失敗をしたからこそまた何かすてきなことが生まれると考えた方が良いのかもしれない。もしくは失敗をしなかったら何が良いのか分からなくなるときがありますから、いろんな実験をして1番自分にじっくりくるものを生んでもらいたいです。答えは一通りではないのでね。



ローム クラシック スペシャル

コバケン・ワールド Vol.22～24

2004年から「コバケン・ガラ」というタイトルで始まった、指揮者の小林研一郎さん自ら楽しく分かりやすくナビゲートし、指揮をするという人気のシリーズで、タイトルを新たに「コバケン・ワールド」として7シーズン目を迎え、その人気ぶりにも拍車がかかっています。

ロームは、この「コバケン・ガラ」/「コバケン・ワールド」シリーズへの支援を第1回から継続的に14年間、今シーズンを含め計43回実施しています。

2019年度も、千住真理子さんをはじめとする豪華ソリストによりお客様に特別な時をお届けしました。



Vol.22 2019.9/14 サントリーホール



Vol.23 2019.11/9 サントリーホール



©山口敦

Vol.24 2020.1/25 東京芸術劇場



次回予告

来年度も開催! コバケン・ワールド Vol.25～27

Vol.25	2020.9/13(日)	サントリーホール	出演: 仲道 郁代(ピアノ) 他
Vol.26	2020.11/8(日)	東京芸術劇場	出演: 鈴木 一志(ファゴット)、 笛田 博昭(テノール) 他
Vol.27	2021.1/24(日)	サントリーホール	出演: 田部 京子(ピアノ) 他
In KYOTO	2021.1/23(土)	ロームシアター京都	出演: 田部 京子(ピアノ) 他



新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室2019 (ロームシアター京都公演)「蝶々夫人」

若い世代に、優れたオペラを鑑賞する機会を通して芸術文化の素晴らしさを伝えるため、新国立劇場にて1998年からスタートしたこの鑑賞教室。2008年からは関西でも開催し、2016年からはロームシアター京都で開催されています。

音楽文化の普及と発展には、優秀な音楽家の育成とともに音楽ファンの拡大も重要との考えから、ローム株式会社は1999年から、ローム ミュージックファンデーションは2008年から毎年継続的に支援しています。

今年も2日間・約2,600人の感性豊かな高校生が鑑賞し、大盛況のうちに幕を閉じました。

この鑑賞教室が、多くの高校生にとって、オペラに親しみそして楽しむきっかけになることを願っています。



2019.10/28、30

ロームシアター京都 メインホール



提供:新国立劇場、撮影:寺司正彦

Voice

鑑賞した高校生の声 アンケートより

- ・輝く蝶々夫人の命が照明や音楽によって際立っていて本当に美しかった。今まで見た舞台で一番感動した。
- ・舞台の演出がすごく良くて、蝶々夫人の悲しさや思いが伝わってきました。
- ・セットと照明が見事に完成されていて素晴らしく、私も演者としてスポットライトを浴びたいなあと思いました。

ROHM MUSIC FESTIVAL

ローム ミュージック フェスティバル

2020

2020.4/18[土]・19[日]

ロームシアター京都
[メインホール/サウスホール/ローム・スクエア]

ロームシアター京都が素晴らしい音楽に溢れる2日間!
国内外で活躍するロームミュージックフレンズなど
豪華出演者による音楽祭!

4 / 18
[土]

リレー コンサート A

ローム ミュージック フレンズによる、一期一会の王道室内楽!
「珠玉の室内楽コンサート」

13:00開演 サウスホール S 3,000円/A 1,500円

F.J.ハイドン : ピアノ三重奏曲 第39番 ト長調 Hob.XV:25 「ジプシー・トリオ」
G.ロッシーニ : チェロとコントラバスのための二重奏曲 二長調
F.シューベルト : ピアノ五重奏曲 イ長調 Op.114, D.667 「ます」 ほか

リレー コンサート B

クラシカルなメロディー、民族色豊かな心躍るリズムを交えた
清塚信也のオリジナル・プログラム! 「ダンス・ミュージックへの誘い」

15:45開演 サウスホール S 3,000円/A 1,500円

F.ショパン : ポロネーズ 第6番 変イ長調 Op.53 「英雄」
A.ピアソラ : リベルタンゴ
P.I.チャイコフスキー : バレエ音楽「くるみ割り人形」 Op.71 より 花のワルツ ほか

オーケストラ コンサート I

豪華歌手陣と美しい映像により歌劇「椿姫」の世界へご案内!
歌手×映像が織り成す「椿姫」スペシャル・ハイライト!

18:30開演 メインホール S 4,000円/A 2,500円/B 1,500円

G.ロッシーニ : 歌劇「セミラミデ」序曲、歌劇「ウィリアム・テル」序曲
G.ヴェルディ : 歌劇「椿姫」(スペシャル・ハイライト版)

4 / 19
[日]

リレー コンサート C

大好評シリーズ、第2弾! 美しいモーツァルトの世界へ、ナビゲーター朝岡聡と個性あふれる演奏家にご案内!
歌手と器楽奏者による「モーツァルト・ガラ・コンサート」Vol.2

14:15開演 サウスホール S 3,000円/A 1,500円

W.A.モーツァルト : セレナード 第13番 ト長調 K.525 「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」より 第1楽章
クラリネット五重奏曲 イ長調 K.581 「シュタードラー」より 第1楽章
2台のピアノのためのソナタ 二長調 K.448より 第1楽章
歌劇「フィガロの結婚」 K.492より 「恋とはどんなものかしら」 ほか

オーケストラ コンサート II

生誕200年を記念して、ベートーヴェンの二大コンチェルトの魅力を郷土産と菊池洋子がお届けします!
ベートーヴェン・コンチェルトの夕べ

17:00開演 メインホール S 4,000円/A 2,500円/B 1,500円

L.v.ベートーヴェン : 「コリオラン」序曲 Op.62、ヴァイオリン協奏曲 二長調 Op.61
ピアノ協奏曲 第3番 八短調 Op.37

各コンサートの出演者はP10の記号A~C、I、IIをご参照ください。

ローム・スクエア 野外特設ステージで行う学生たちによる楽しいコンサート(無料公演、天候によっては中止の場合あり)



特設サイトを
オープン!

公演の詳細はこちらをご覧ください。

ローム ミュージック ファンデーション

検索



主催: 公益財団法人 ロームミュージックファンデーション 共催: ローム株式会社
後援: 京都府、京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

チケット
お取り扱い

- ロームシアター京都チケットカウンター 075-746-3201
- チケットぴあ 0570-02-9999 <https://t.pia.jp/> [Pコード:172-657]
- エラート音楽事務所 075-751-0617 ほか

チケットは全席指定・消費税込です。(ローム・スクエア公演を除く)。
未就学児のご入場はご遠慮ください。(ローム・スクエア公演を除く)。
都合により出演者、曲目が変更になる場合がございます。予めご了承ください。





出演者



A

田村 響 (ピアノ)



A

黒川 侑 (ヴァイオリン)



A

瀧本 麻衣子 (ヴィオラ)



A

佐藤 晴貞 (チェロ)



A

渡邊 玲雄 (コントラバス)



B

清塚 信也 (ピアノ)



B

松田 理奈 (ヴァイオリン)



B

古川 展生 (チェロ)



I II

広上 淳一 (指揮)



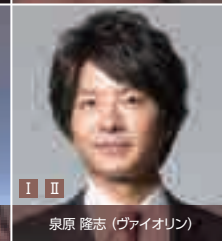
I

小林 沙羅 (ソプラノ/ヴィオレッタ)



I II C

朝岡 聡 (ナビゲーター)



I II

泉原 隆志 (ヴァイオリン)



I

高田 正人 (テノール/アルフレード)



I

甲斐 栄次郎 (バリトン/ジェルモン)



I II

京都市交響楽団 (管弦楽)



C

神谷 未穂 (ヴァイオリン)



C

磯 絵里子 (ヴァイオリン)



C

鷺尾 麻衣 (ソプラノ)



C

木村 善明 (バス/バリトン)



C

赤坂 智子 (ヴィオラ)



C

中木 健二 (チェロ)



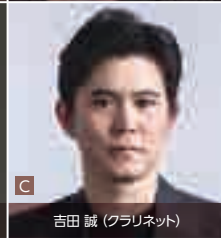
C

三浦 友理枝 (ピアノ)



C

浜野 与志男 (ピアノ)



C

吉田 誠 (クラリネット)



II

郷古 廉 (ヴァイオリン)



II

菊池 洋子 (ピアノ)

田村 響◎武藤 章 黒川 侑◎Ikuo Hiramatsu 瀧本 麻衣子◎井村重人 佐藤 晴貞◎FUKAYA_Yoshinobu/auraY2 松田 理奈◎Naruyasu Nabeshima
 古川 展生◎Yuji Hori 広上 淳一◎Masaaki Tomitori 小林 沙羅◎NIPPON COLUMBIA 京都市交響楽団◎伊藤菜々子
 磯 絵里子◎Yoshinori Kurosawa 赤坂 智子◎Junpei Tainaka 中木 健二◎ザフワヒロミチ (Capsuleoffice) 三浦 友理枝◎Yuji Hori
 浜野 与志男◎井村重人 吉田 誠◎Aurélien Tranchet 郷古 廉◎Hisao Suzuki 菊池 洋子◎Yuji Hori



京都・国際音楽学生フェスティバル2020



世界の選ばれし若き音楽学生が京都に集う!

京都・国際音楽学生フェスティバル2020

音楽を通じた国際交流と若い音楽家の育成を目的に1993年から継続している国際的な音楽祭です。

海外9カ国9校と日本の音楽学校の学生、約100名が京都に集い、学校ごとの演奏や混成のアンサンブル、オーケストラと合唱など全て学生だけで音楽を作り上げ披露します。

それぞれの環境で音楽を学び、言語も違う若い音楽家たちは京都に滞在する2週間の間に大きく成長します。

ぜひ若い音楽家たちの熱演にご期待ください!



過去のフェスティバルより

国	学校	国	学校	国	学校
アメリカ	ジュリアード音楽院	日本	桐朋学園大学	日本	同志社女子大学
オーストリア	ウィーン国立音楽大学		東京芸術大学		相愛大学
フランス	パリ国立高等音楽院		国立音楽大学		くらしき作陽大学
ドイツ	ベルリン芸術大学		武蔵野音楽大学		洗足学園音楽大学
ロシア	チャイコフスキー国立モスクワ音楽院		東京音楽大学		エリザベト音楽大学
イタリア	ミラノ・ヴェルディ音楽院		大阪音楽大学		
英国	英国王立音楽院		京都市立芸術大学		
ハンガリー	リスト音楽大学		愛知県立芸術大学		
ポーランド	ショパン音楽大学		大阪芸術大学		

2020.5/23～5/27
京都府立府民ホール アルティ

1993年～2019年までの参加者数:
海外568人、国内2,057人、合計2,625人

過去のフェスティバルの様子は
ブログや動画でご覧いただけます。
詳しくはローム ミュージックファンデーションの
WEBサイトまで。

世界で活躍するローム ミュージック フレンズによる
音楽家育成セミナー

RoHM Music
Foundation
ロームミュージックファンデーション



ROHM MUSIC SEMINAR 2020

ローム ミュージック セミナー

宮田大・チェロクラス

受講生募集

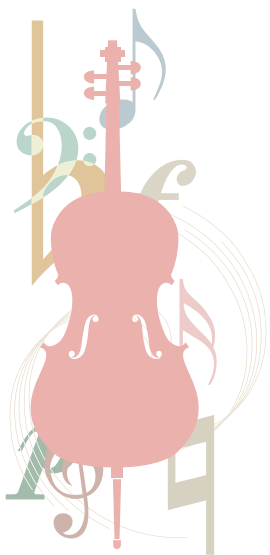
2020 8/24(月) - 8/29(土)

セミナー : 2020年8/24(月)~8/28(金)

コンサート : 2020年8/29(土) ※コンサートの詳細は後日発表



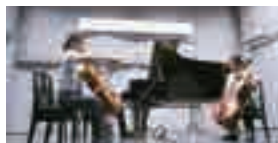
©M.Yamashiro



国内外で活躍するローム ミュージック フレンズを講師としたローム
ミュージック セミナーを2020年も開催します。

このセミナーでは、世界を舞台に活躍する音楽家を目指す方へレッス
ンを行います。前回に引き続き講師を務めるローム ミュージック フレ
ンズは、チェリストの宮田大さんです。また、本セミナーの最終日には成果
発表のコンサートを行い、受講生のソロ、アンサンブルに加え、講師で
ある宮田大さんの演奏も行います。

※受講生の募集は既に終了しております。



過去のレッスンとコンサートの様子

過去のセミナーを動画で公開中!⇒



Voice

講師からのメッセージ

ローム ミュージック セミナーは他のセミナーと違う点が2つあります。1つ目に1人の受講生に対して指導を行う時間が毎日とても長いこと。2つ目に毎日異なった曲目を受講することができ、素晴らしいホールで座席には多くの聴講の方がいるという演奏会のような緊張感のなかで受講することが出来ます。これは演奏家として成長していく要素でもあると思います。聴講をされる方も、音楽とチェロの魅力、受講生の日々の変化や発見も感じられると思います。これからもたくさんの若い演奏家が誕生して国際コンクールやマスタークラスへ挑戦し、留学して世界へ羽ばたいていくために、このローム ミュージック セミナーでの受講が少しでも殻を破るきっかけになればと思っています。

お便り

The letter from rohm music friends



ローム ミュージック フレンズから届いた
ご活躍の様子を一部ご紹介します。(順不同)

氏名【専攻】 援助年度
給付時の在籍学校



2019年 夏

さとう はるま
佐藤 晴真【チェロ】 2017・2018年度奨学生

東京藝術大学、ベルリン芸術大学

ローム ミュージック ファンデーションでの奨学期間が終わり、その集大成として2019年はコンクールに積極的に参加する年にしようと、以前より決めておりました。その結果、2019年9月に行われたミュンヘン国際音楽コンクールにて第1位をいただくことができました。とても光栄に思うと同時に、2年間支援してくださったことに心から感謝しています。経済的なご支援だけではなく、素晴らしい演奏家の方々とかけがえのないつながりを持たせてくださいました。これからも誠実に音楽に向き合っていきたいと思っております。



©Daniel Delangu

コンクールの本選会にて



©FUUKAYA Yoshinobu/aura12



第29回芥川也寸志サントリー作曲賞受賞

いなもり やすたき
稲森 安太己【作曲】 2009～2011年度奨学生

ケルン音楽舞踊大学

2019年8月、第29回芥川也寸志サントリー作曲賞を受賞いたしました。受賞作品『擦れ違いから断絶』はエッセン・フィルハーモニーの委嘱でスタジオ・ミュージックファブリークのために2018年に作曲したものです。今回の受賞に伴い、新作管弦楽曲がサントリーから委嘱され、2021年度のサントリーホール・サマーフェスティバルにおいて初演されます。



(公財)サントリー芸術財団



©Heinz Wernicke



(公財)サントリー芸術財団

上/芥川也寸志サントリー作曲賞
受賞の盾とともに
下/審査員の先生方と



東京音楽コンクール、日本音楽コンクール

たきもと みさと
瀧本 実里【フルート】 2018年度奨学生

東京音楽大学

2019年に開催されました、第17回東京音楽コンクール 木管部門、第88回日本音楽コンクールフルート部門において、それぞれ第1位をいただきました。管楽器の部門はそれぞれ2年に1度、3年に1度の開催ですが、今回はフルート奏者にとって近い期間に2つの大きなコンクールが同時開催されるという、慌ただしい年となりました。フルートのコンクールとしては珍しくも、両本選ともにオーケストラとの共演でしたので、大変貴重で素晴らしい経験をさせていただくことができました。演奏中はオーケストラのさまざまな音に包まれて、審査中だということを忘れそうになるような至福のときとなりました。今後は海外にも目を向けて、国際コンクールにも挑戦していきたいと思っています。



©土居政則

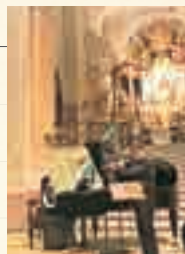
ROMY MUSIC FRIENDS
No.10
MAR.
2020

近年の演奏活動

ささき ひろこ
佐々木 宏子 [ピアノ] 1991・1992年度奨学生

カーティス音楽院 ピーボディ音楽院

2018年はプラハ交響楽団とショパンのピアノ協奏曲第2番を演奏、2019年は、カーネギーワイルホールでの13回目の演奏会をはじめ、ニューヨーク、マーキンホールでベートーヴェンチェロソナタ全曲演奏会を行いました。また、ブダペストで行われた、Klassz pARTon Festivalでのゲルゲイ イチェツ氏との演奏会では、ハンガリーの“Fidelio” マガジンに、“この繊細な芸術家の演奏は偉大なピアニスト、アニー フィッシャーの演奏を思い起こさせた”と、高い評価をいただきました。5歳と2歳児の子育てと、演奏の両立は大変ですが、お陰様で充実した演奏活動を行っております。



上 / Klassz pARTon Festival
下 / プラハ交響楽団と

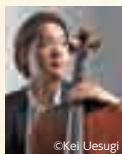
ROMY MUSIC FRIENDS
No.10
MAR.
2020

カルテット・アマービレ、アメリカへ

ささめま たつき
笹沼 樹 [チェロ] 2016・2017年度奨学生

学習院大学、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコース、桐朋学園大学大学院

ソロやオーケストラでの活動と同様に力を入れているのが「カルテット・アマービレ」での演奏活動です。このメンバーで訪れるのは初めてのアメリカ、ニューヨークでの様子を報告します。Young Concert Artistという、60年の歴史を持つオーディションを受けるのが目的で、嬉しいことに第1位をいただくことができ、2020年より3年間アメリカのさまざまな地域に演奏をしに行く機会ができました。5年目を迎えた私たちのカルテットは、お互いのアイデアや歌心をどのようにひとつの作品に詰めていっか、日々楽しみながら音楽づくりをしています。



上 / Young Concert Artist
オーディションの本選
下 / これからお世話になるYoung
Concert Artistの事務局の方々と

ROMY MUSIC FRIENDS
No.10
MAR.
2020

ロンティボー国際ピアノコンクール

むかわ けいご
務川 慧悟 [ピアノ] 2015・2016年度奨学生

パリ国立高等音楽院

留学生活6年目を迎えて慣れ親しんだパリの街で、2019年11月にロンティボー国際ピアノコンクールに参加、第2位を受賞しました。自分がいち聴衆として何度も通った憧れのコンサートホールで、大好きな作品を弾く夢のように幸福な瞬間と、コンクールという特殊な状況が生み出す苦しみとのほごまで格闘しながら、でもどうやら多くのお客様や音楽関係者の方々に演奏を気に入っていただけたようで、特にフランスでの演奏会が山ほど決まり、前途洋々な気持ちで今、過ごしています。



上 / 本選は憧れの“ラジオ・フランス”
のホールで行われました
下 / 審査員には、ピアニスト マルタ・
アルゲリッチ様のお姿も

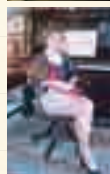


ベル・カントからヴェリズモ

おかだ しょうこ
岡田 昌子 [ソプラノ] 2014・2016年度奨学生
ニコロ・パガニーニ音楽学校



奨学生として留学させていただきました後も引き続きイタリアに残りヨーロッパ、日本を行き来しながら活動しています。2019年秋には日本で日生劇場『トスカ』トスカ役を歌いました。その後紀尾井ホールでリサイタルもありました。ベル・カントからヴェリズモまで勉強してきた成果がよく発揮できたかと思えます。息の長い歌手として歌っていくためにこれからもドラマティックな役をこなしながら、常にベル・カントに帰り、声を健康に保っていきたいと思えます。



上/イリカでのコンサート
下/イタリア・トッレデルラーゴのブッチェーニの家でのソロコンサート



日墺国交樹立150周年記念の1年

よしざわ まこと
吉澤 淳 [ソプラノ] 2016・2017年度奨学生
アントンブルックナー音楽大学



2019年は日墺友好150周年を迎え、リンツの姉妹都市である那須塩原市、そしてリンツでは、10年以上関西で活動したヨーゼフ・ラスカ氏を迎えた記念演奏会にそれぞれ出演いたしました。またウィーン市庁舎で行われたAdventsingen国際合唱フェスティバルにアンサンブルメンバーとして参加いたしました。記念すべき年に自分にとって大切な2か国を結び演奏会に参加でき、本当に嬉しく思います。リンツでの修士課程も最優秀の成績で修了することができ、2020年は新たな環境で精進していきたいと思います。



上/Adventsingen国際合唱フェスティバル
下/演奏会后、ヨーゼフ・ラスカ氏と



師匠のコンサートをプロデュース

かげやま りの
景山 梨乃 [ハープ] 2013・2014年度奨学生
ベルリン芸術大学



東京交響楽団への入団に際し留学から戻って以来、オケだけでなくソロやアンサンブルなどさまざまな演奏の機会をいただいておりますが、日々勉強の連続であることは変わっていません。そんななかでここ最近の一番の勉強は、大学時代の師匠であるラングラム先生のコンサートを企画したこと。本番の日を迎えるまでには多くの過程があり、どのように私たちが支えられているのかということを変えて学びました。コンサートを一から作ることはもしかすると演奏以上の労力かもしれません。



上/2019年12月、紀尾井ホールにて
下/企画したコンサートのチラシ



コンクール優勝とCDリリース

すみや みほ
住谷 美帆 [サクソフォン] 2017年度奨学生
東京藝術大学

スロヴェニアで行われたサクソフォンコンクールで優勝後、初のCDアルバムをリリースすることができました。2019年はCD発売記念リサイタルを全国各地で行い、ソリストとしてさまざまなオーケストラと共演をし、TV番組へも多数出演させていただきました。大学卒業後に環境がガラリと変わり、とても刺激的な日々を送っております。これから素晴らしい演奏をお届けできるように日々精進してまいります。



上/スロヴェニア国際サクソフォンコンクールの本選
下/CD発売記念リサイタルをピアニストのイリヤ・ラシュコフスキーさんと



感謝とともに

つだ ゆうや
津田 裕也 [ピアノ] 2008~2012年度奨学生
ベルリン芸術大学

音楽を通していろいろな出会いをいただき、演奏できることに深い感謝を感じます。2019年はチャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番を仙台フィルハーモニー管弦楽団と、プロコフィエフのピアノ協奏曲第3番を名古屋フィルハーモニー交響楽団と、ラフマニノフのバガニーニ狂詩曲を大阪交響楽団と、ショスタコーヴィチのピアノ協奏曲第2番をオーケストラ・アンサンブル金沢と演奏いたしました。1年を通してロシアの協奏曲をまとめて勉強する機会に恵まれ、貴重な経験となりました。また室内楽ではシェレンベルガーさんと初めてご一緒させていただき大きな刺激を受けました。留学時代に学んだことを今後も演奏や指導に生かして精進していきたいです。



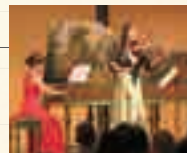
上/外山雄三指揮名古屋フィルハーモニー交響楽団とプロコフィエフの協奏曲第3番を共演
下/シェレンベルガーさんとヌエスさん(ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団首席奏者)とともに



15年という時間

かなまる ようこ
金丸 葉子 [ヴィオラ] 2002・2003年度奨学生
アムステルダム音楽学校

ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団に入団してから15年の年月が経ちました。その間、出産や育児の経験、そして室内楽ではコンセルトヘボウのメンバーと日本で演奏する機会がありました。日本人メンバーということもあり、学校でのアウトリーチの企画も任せられました。私がヨーロッパで経験したり学んだりを、次世代の音楽家に伝えていきたいと思っております。またヴィオラの魅力もコンサートを通じて伝えていきたいです。



上/ヴィオラとチェンバロの演奏(いぬき芸術交流会館アリオス)
下/コンセルトヘボウメンバーとの室内楽(オランダ大使館)





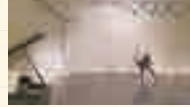
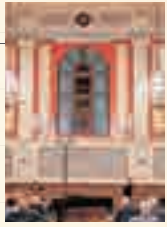
世界で通用するコレペティートルを目指して。

ことぶき ちあき

壽 千明 [ピアノ] 2008・2009年度奨学生

ウィーン市立音楽大学

2018年よりストックホルムを拠点とし、フリーランスのピアニスト・コレペティートルとして活動しております。フリーのコレペティートルとは一種のなんでも屋です。朝、電話がかかってきて、当日オーディション会場に飛び込むのは序の口。また、準備していった曲から、違う曲に変更というのもよくある話で、自分のレパートリーに無い曲であっても弾かなければなりません。その場で弾けなければ、次の仕事は来ないからです。プレッシャーもありますが、それ以上に、仕事を通してさまざまな出会いがあり、彼らの芸術性や人間性に触れることができるのは、何にも勝る喜びです。



上/ドイツ・ロストックにて、
バイオリニストと共演
下/パレエスタジオでリハーサル
の1コマ



2019年度より東京芸術大学の准教授に就任

うえむら たろう

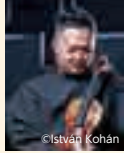
植村 太郎 [ヴァイオリン] 2007～2010年度奨学生

ドイツ国立ハノーファー音楽演劇大学、ハンズアイスラー音楽大学大学院

所属する名古屋フィルハーモニー交響楽団のコンサートマスターに加え、藝大フィルハーモニアのソロコンサートマスター、また東京芸術大学や愛知県立芸術大学、桐朋オーケストラアカデミーでも教え始め数多くのコンサートの両立は大変なこともありますがとても充実し、特に最近は教えるなかで、さまざまなことに気づき発見があります。これもソロや室内楽など幅広くヨーロッパで学べた経験がとても大きいと感じており、音楽家としてこれからも成長していきたいと考えています。



上/2017年に始めたヴァイオリン
太郎合宿は2020年春、第9回
を迎えます
下/2019年7月 三重文化会館にて
パッ協奏曲本長調のリハーサル



©István Kohán



2019年の活動

ふじもと こうき

藤元 高輝 [クラシックギター] 2011・2012年度奨学生

東京音楽大学

2019年はいろいろあった一年で、19世紀のオリジナルギターによるソルの作品のレコーディング、東京オペラシティリサイタルシリーズB→Cへの出演、新潟室内合奏団との共演など盛りだくさんでした。また、コンクールにも挑戦しました。2019年5月に開催された、ドイツのハインツベルク国際ギターコンクールでは1位をいただき、優勝の記念としてヨーロッパ各地で演奏会をさせていただけるほかに、2020年にはナクソスからCDをリリース予定です。



©Yamato Hasumi



上/新潟室内合奏団の本番で、
指揮者の本多優之先生と
下/ハインツベルク国際ギター
コンクール表彰式



日々の音楽生活

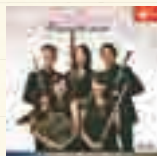
ほんだ けいすけ
本多 啓佑 [オーボエ] 2011・2012年度奨学生
ハンブルク音楽演劇大学



留学が終わると同時に入団した東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団での生活も7年が過ぎようとしています。オーケストラの中でのオーボエはソロを吹いたり全体をまとめたりと役割が多く毎回緊張しますが、素晴らしいメンバーに刺激を受けながら楽しく演奏しています。またアンサンブル・ミクストのメンバーとしても活動し演奏会のほか、小学校などでのアウトリーチに力を入れています。微力ながら子供たちが音楽に興味を持つ一助になればと考えています。



©友近祐志



上 / 東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団の定期演奏会から
下 / アンサンブル・ミクストでリリースしたモーツァルトのCD



日々勉強

くらとみ りょうた
倉富 亮太 [ヴァイオリン] 2016年度奨学生
東京藝術大学大学院



2018年9月よりNHK交響楽団に所属し、その傍らでソロリサイタルを年1回行い、オーケストラ作品だけでなくソナタ作品などからも作曲家と向き合ってます。室内楽の機会にも恵まれていて、2019年末のベートーヴェン交響曲全曲演奏会後にロビーコンサートで美しき青きドナウを演奏し、そして2020年1月5日にROOM奨学生同士で集まり東京文化会館小ホールにて“室内楽祭2020!!”を行いました。2020年はNHK交響楽団のヨーロッパツアーやサイモン・ラトル指揮のベルリン・フィルハーモニー管弦楽団定期公演など、今から楽しみです。



上 / ロビーコンサート後、NHK交響楽団のメンバーと
下 / 室内楽祭2020!! 終演後



出会いに恵まれた音楽活動

おち はるこ
越知 晴子 [ピアノ] 2004～2006年度奨学生
ミュンヘン音楽大学



ミュンヘンにて多くの演奏家と仕事をした経験を生かし帰国後は主にアンサンブルピアニストやコレペティートルとして活動しています。2019年は新国立劇場などでのオペラプロジェクトに関わる傍ら、室内楽演奏会やリサイタル伴奏など多くの演奏の機会に恵まれ、一部はNHKのテレビ番組やラジオ番組で放送されました。今年は国際オペラコンクールの公式伴奏、歌手とのCD制作も行う予定です。毎年の新しい出会いが演奏活動の幅を広げることにつながり嬉しい限りです。



新国立劇場

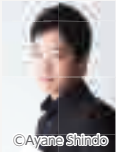


静岡国際オペラコンクール実行委員会提供
上 / 新国立劇場での「蝶々夫人」
立ち稽古風景
下 / オペラ県民講座にて



ローム ミュージック ファンデーション ブログ

奨学生レポートより



©Ayano Shindo

むかい ひびき

向井 響 [作曲]

2019年度奨学生

アントワープ王立音楽大学大学院



アントワープ
Antwerp

ベルギー
Belgium

ロームミュージックファンデーション奨学生の向井響です。

2019年9月、ウクライナ外務省の行う音楽祭「Sounds Around Me」にて、若い作曲家を対象とした作品委嘱プロジェクトの公募があり、私の48のスピーカーとチェロを使ったプロジェクト「幽体の鳥」を選んでいただきました。この作品のために、ウィーン美術アカデミーの展示場の3階、4階を貸し切り、客席からスピーカーの位置、残響、会場の広さなど、コンピュータを使い厳密に計算し、48のスピーカーを配置していただきました。実際のコンサートでは、Thomas Gorbach氏、Alla Zagaykevych氏の協力のもと、幽体の鳥を表現したさまざまな音(羽ばたき、鳴き声など)を含むエレクトロニクスを、チェロのライブパフォーマンスに合わせて、自由自在にコントロールして、音を会場に放散しました。エレクトロニクスを、時間軸を持つ音響彫刻として捉え、実体を持たない鳥を、会場に飛ばす、という、新しい音楽の形を問うこの挑戦は、これまでコンサート形式を中心に作品を書いてきた自分にとって、音楽の形を考える、とても良い機会になりました。リアルな音響体験をもたらす音楽づくりをこれからも続けていきたいと思っています。



ORDA-2019本選会にて、審査員の先生方と



アントワープ王立音楽大学大学院にて、
ウィム・ヘンドリック先生とのレッスン

2019年10月27日アムステルダムにて行われた、ORDA-2019の作曲部門の本選会にて、リコーダーソロ、アンサンブル、打楽器、ライブ・エレクトロニクスのための「機械の肌」が第1位を受賞しました。今回ライブ・エレクトロニクスのプログラムを刷新し、リコーダーのアーティキュレーション、ピッチをデータとしてコンピュータに読み込み、アンサンブルの音を増幅することで、パーチャルのリコーダーコンチェルトをつくるという壮大なプロジェクトでした。コンクールにてソロリコーダーを務めてくださった中村栄宏さんと、アントワープでの共同プロジェクトを始めることになり、来年もたくさんの作品を世に出すことができそうです。今からとても楽しみです。

チェロパートは現代音楽のスペシャリスト、
Michal Moser氏に演奏していただきました。

今こうして勉強に打ち込むことのできる幸せを噛みしめ、作曲家として私にできることは何か、日々考えながらもひたむきに努力してまいります。



会場となったウィーン美術アカデミー特別展示場



かつき うらら

香月 麗 [チェロ]

2019年度現学生

ローザンヌ音楽院大学院



マッターホルンにて、力強く、
自然の神秘を感じる山々



街が一望できるPhillipsクラス
レッスン室からの眺め

ロームミュージックファンデーション奨学生の香月麗です。

すべてが新しいことばかりの留学生活ですがシオンの町は穏やかに私を見守り、受け入れてくれている気がします。そう感じるの町をどこを歩いていても見える、町を囲んでいる山々の表情からでしょうか。ブラインドを開け目の前にそびえ立つ山々を見上げて、大きく息を吸うことから1日が始まります。おごらず、でんと構えた美しいスイスの自然に感動し、作曲家たちが多くの名曲を生み出したこの地で学ぶことができる幸せを感じています。

Xavier Phillips氏のレッスンではいままでと少し違うイメージの曲が聴きたいといくつか曲をあげられ、開拓の日々です。大学院の室内楽の授業では新しい仲間とカルテットを組みました。同世代の音楽家と時間をかけて音楽をつくっていくことが楽しく、相手をよく見聞きすることで自分と向き合う良い機会となっています。

ほかにもフランス語や、論文を書くための講義、即興の授業に出席しています。特に即興の授業では今まで経験しなかった、楽譜のない自分の音を求められ戸惑い苦戦していますが、もっと楽器と自分の関係が近くなって自由になれるのではと思ひ、このチャンスを逃すまいと奮闘しています。いろんな場面で新しいアイデアが私に降りかかっています。

10月に一度帰国した際には、東京で勉強していた時のご縁でお誘いいただいた演奏会にいくつか出演しました。それらのうちオーケストラの演奏会では、プロのオーケストラの作法のいろはを教えていただき、私にとって大きな経験でした。オーケストラにおいて無言で作られていくものに度々驚き、特にppの時に、音量はとてつもなく小さいのだけれど、圧があり、たくさんの音が集まってひとつの方向に向かう様子が見えて、その音たちが胸にスーッと沁みてきたときはとても幸せな気持ちになりました。新しい世界を知ることができた喜びがありました。

スイスの地では新しいアイデアを新鮮な空気とともに取り入れることができ、日本に帰った時には今までは気付かなかった日本の素晴らしさ、ご縁のありがたさを感じます。

これからも精進いたします。



さとう もとひろ

佐藤 元洋 [ピアノ]

2019年度奨学生

ベルリン芸術大学大学院



ベルリン芸術大学の歴史ある重厚な校舎



ベルリン市内の森を散策、季節ごとに美しい姿を見ることができます



仙台国際音楽コンクールでのステージ

ローム ミュージック ファンデーション奨学生の佐藤元洋です。夏季休暇中の日本での演奏会を終え、戻った10月初旬のベルリンは、吐く息白く人々も既に厚手の装い。私にとって4度目のベルリンの秋ですが、日本とのギャップにはまだ驚かされます。とはいえ、晴れた日には日差しの暖かさを感じ、思わず少し歩きたくなることもあります。ベルリンは街の木々も多く、とりわけ市街地から十数分で行くことのできる森は、色づく葉や落ち葉で一面が染まった美しい姿を見せてくれます。静かな森で、木々のざわめきを感じながら歩けば、心の落ち着くとても良い時間を過ごすことができます。この秋で、留学生生活を始めてから3年半になりました。師事するビョルン・レーマン教授のもと、まわりからも多くの刺激を受けながら、充実した学びをさせていただいています。ここベルリンを拠点としながら、ヨーロッパ各地でコンクールやマスタークラスに参加したり、演奏をさせていただいたりと活動をしています。この半年間も、さまざまな場所で演奏や学びの機会を得ることができました。

特に大きな経験になったのは、2019年5月から6月にかけて開催された、第7回仙台国際音楽コンクールに参加したことでした。日本での国際コンクールへの参加は久しぶりでしたが、幸せなことにファイナルまですべての舞台上に立たせていただき、(このコンクールの特色でもある)仙台フィルハーモニー管弦楽団の皆さん、広上淳一さんと3曲の協奏曲を演奏できたことは、本当に貴重な経験でした。いただいた第4位という結果ももちろん今後の糧となりますが、長期間に渡るコンクール期間、肉体的にも精神的にも過酷な状況のなかで、各方面からのさまざまなサポートや聴いてくださった方々のお言葉、コンテスト同士の励まし、共演者、そして何より音楽から大きな力を受けながら、駆け抜けた時間はかけがえのないものでした。これを書いている今も、マスタークラスに参加するためイタリアに滞在しています。マスタークラスでは、レッスンからの学びはもちろん、それ以外にも、参加者同士の交流や、訪れる土地の風土や歴史などから自分の感性を豊かにするヒントを受けることができます。

今後も、ベルリンという素晴らしい環境に身を置きながら、ヨーロッパで勉強のできる貴重な時間を大切に、さまざまな場所で積極的に活動していきたいと思っています。



すがぬま けいち

菅沼 起一 [音楽学]

2019年度奨学生

バーゼル・スコラ・カントルム



バーゼルで行われた中世・ルネサンス音楽学会での学会発表の様子



バーゼル音楽院



授業を担当した記譜法の資料

ローム ミュージック ファンデーション奨学生の菅沼起一です。スイス、ドイツ、フランス三国の国境が交わる街、バーゼルでの生活も2年目に入りました。私は、2018年よりバーゼル・スコラ・カントルムという教育機関に留学しております。今回は、私の留学先と、そこで学んでいることの紹介をしたいと思います。

バーゼル・スコラ・カントルム(以下、スコラ)は、古楽(中世、ルネサンス、バロックなどより古いレパートリー。さらには、同時代の楽器や奏法、音楽理論などを用い演奏する方法論を指す言葉)に特化した機関であり、私は、音楽理論科という専攻に在籍しております。古楽とその演奏を学ぼうとすると、単に当時の楽器や奏法を用いるだけではなく、バックグラウンドとなるさまざまな事柄が、いわゆる「モダン」の勉強とは異なってきます。例えば、音大で学ぶ楽典も「それぞれの時代に合った音楽理論」に、ソルフェージュもいわゆる「シ」を用いないソルミゼーションになり、そもそも楽譜の書かれ方、読み方も現代と昔のものでは全く異なるため、各時代の記譜法を学んだりします。そのような演奏に必要な不可欠なバックグラウンドに関する事柄を専門的に学び、現代においていかにそれらを教えていくか、その教育メソッドについて研究することが、音楽理論科での主な勉強内容となります。

音楽理論科の学生の一週間は、自分の専門研究(私の場合は、16~18世紀に盛んに用いられた「ディミニュション」という装飾技法です)に加え、山のような授業を履修することで終わります。歴史的作曲技法、記譜法、音楽理論史など、1年目は一週間で計16コマもの授業がありました。平日は朝から晩まで授業、それが終わったら帰って課題と自分の研究、土日も課題と研究…と、息つく暇もないほど忙しく充実した日々を、今でも送っております。

2年目からは、これらの授業を「受ける」ことに加え、授業代行、つまり授業を「する」ことも増えてきました。これも音楽理論科の修了要件単位であり、2019年10月には同じスコラの学生を前に、100分間の記譜法の授業を3日間担当しました。研究者として、自分の専門分野の研究を進める一方、このような古楽演奏に必要なバックグラウンドの教育活動を日本でも行っていくことが夢でもある私にとって、スコラはこれ以上ないほど素晴らしい環境です。冬時間となり、凍える寒さといつ見上げても広がる曇天に気が滅入る毎日が続いているようですが、ここでの勉強が続けられていることに感謝し、引き続き精進してまいります。



©井村重人

おおせき まゆ

大関 万結 [ヴァイオリン]

2019年度奨学生

ウィーン私立音楽芸術大学



ウィーン
Vienna

オーストリア
Austria

ローム ミュージック ファンデーション奨学生の大関万結です。

2019年9月から、これまでずっと憧れと親しみを感じてきたウィーンに住み、ウィーン私立音楽芸術大学で学んでいます。こちらに来てまだ2ヶ月ですが、たくさんの方々を支えられ、充実した時間を過ごしています。まず、こちらに来て私が強く感じることは、音楽が生活のなかの当たり前文化として根付いているということです。ウィーンではオペラの立ち見があったの3ユーロ(400円弱)です。日本ではDVDで見ていたような一流のオペラを、並ぶ時間さえ我慢すれば毎晩安価で見ることができるのです。ほとんどは19時開演で、だいたい3時間前の16時から並び、立ち見なのでそこからさらに約3時間ほど立ちっぱなしで体力が求められますが、素晴らしい歌手を聴くことができた夜は言葉にできぬ満足感を手にして帰路に着きます。

そして屋外にはパブリックビューイングが設けられる日もあり、そこにはオペラを見るためだけでなく、仲間と集まり談笑することを目的に集まる光景も目にします。このようにオペラがBGMと化する現象は、日本ではまず見られない光景でしょう。

そうして頻繁にオペラに触れていくなかで、音楽と言語の強い結びつきを身をもって実感することができています。言語の持つリズムと音楽のリズムの深い関わりを、頭では理解していたつもりでしたが、最近やっと身をもって感じる事ができました。

歴代の作曲家が最終地点として見据え、誰もが書くことを目指していたオペラ。手軽に触れることのできる環境を最大限に生かし、もっともっと深く掘り下げていきたいと思っています。

そして学校では、週に一度コレパティールと弾く機会が授業の一環として設けられています。日本では演奏会くらいしかデュオで弾く機会がなかったので、ピアノという楽器と弾くこと自体が大好きな私にとって、毎週のこの時間はとても楽しいものです。

現在、争いや災害などで衣食住すら足りない人たちが世界中にあふれるなかで、好きなことを好きなだけ勉強できるこの恵まれた環境に感謝し、少しでも成長できるよう努力し続けていきたいと思っています。まだ始まったばかりの留学生活ですが、温かく見守っていただけたら幸いです。



シェーンブルン宮殿が誇る広大な庭園のお花たち。日光浴や読書など思い通りに過ごします



よく立ち見に行くオペラ座にて



秋の空は幻想的です



ローム ミュージック ファンデーション ブログでは、
現役奨学生からのレポートや財団の事業の紹介などを掲載しています。

<https://micro.rohm.com/jp/rmf/blog/>





コンサートの様子をWEB上でダイジェスト映像で楽しめる
ムービー・アーカイブ



ローム ミュージック ファンデーションが主催するコンサートのダイジェスト映像をWEBサイトで公開しています。コンサートにご来場いただけなかった方も雰囲気を楽しむことができます。過去の映像には現在大活躍中のローム ミュージック フレンズも出演していますので、ぜひご覧ください。

ムービー・アーカイブはこちら⇒



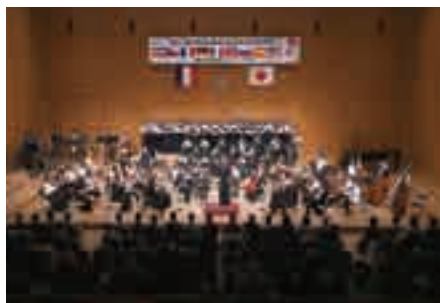
ローム ミュージック ファンデーション
スカラシップコンサート



ローム ミュージック フェスティバル



京都・国際音楽学生フェスティバル



ローム ミュージック セミナー



ロームシアター京都 ミュージックサロン

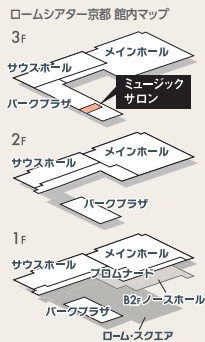
ロームシアター京都の開館と同日である2016年1月10日にオープンしたミュージックサロン。音楽とさまざまな形で触れ合うことができる施設として各種イベントを開催し、これまでに多くのお客様にご来場いただいています。

■「ミュージックサロン」施設概要

場 所：ロームシアター京都 パークプラザ3階東側
面 積：約96㎡
定 休 日：臨時休館日を除き年中無休
営 業 時 間：10:00～19:00
利 用 料 等：無料、原則出入り自由（一部整理券が必要な場合あり）
主 要 設 備：7.1chサラウンドシステム、120インチスクリーンプロジェクター、演奏スペースなど
主 な 開 催 内 容：コンサートなどの映像・音源の放映、イベント（コンサート、セミナー、資料展示等）の開催



©上田祐勢



ミュージックサロン スケジュール

期 間		内 容
12/7、8	イベント	トーク&コンサート ドヴォルジャークの世界 ～チェコの弦楽の響き～
12/10～1/23	展示会	小澤征爾音楽塾展2020 第1部
1/25、26	イベント	トーク&コンサート ドヴォルジャークの世界 ～スラヴの哀しみと真珠の輝き～
1/28～3/25	展示会	小澤征爾音楽塾展2020 第2部
2/2	イベント	小澤征爾音楽塾展コンサート Vol.1 チェロ
2/8	イベント	小澤征爾音楽塾展コンサート Vol.2 ヴァイオリン
2/23	イベント	小澤征爾音楽塾展コンサート Vol.3 クラリネット

2019.12/7、8

トーク&コンサート

ドヴォルジャークの世界 ～チェコの弦楽の響き～

作曲家シリーズ第3弾はドヴォルジャーク。

その第1回目は、“弦楽四重奏”に焦点を当てソロ・室内楽・オーケストラと各分野で活躍をみせる玉井菜採さん、会田莉凡さん、三浦克之さん、中木健二さんの4名が、さまざまな視点からドヴォルジャークの魅力に迫りました。



2020.1/25、26

トーク&コンサート

ドヴォルジャークの世界 ～スラヴの哀しみと真珠の輝き～

ドヴォルジャークシリーズ第2回目は、ピアノ、ヴァイオリン、チェロ、3つの楽器によるピアノ・トリオを中心に、各分野で活躍をみせる浜野与志男さん、岡本誠司さん、辻本玲さんの3名が、さまざまなアンサンブル曲を通して、ドヴォルジャークの魅力を紹介していただきました。



2019.12/10～2020.3/25

小澤征爾音楽塾展2020

世界的指揮者である小澤征爾さんの熱い思いから始まった若手音楽家の育成プロジェクト、小澤征爾音楽塾。小澤征爾さん直筆の書き込み入りの楽譜や、過去の公演で使用された舞台衣装、などの貴重な資料を公開したり、オペラの衣装を実際に着ることができる体験コーナーの設置など、多くのお客様にご来場いただきました。



小澤征爾音楽塾展コンサート

小澤征爾音楽塾展の期間中、過去に参加した塾生OB、OGによるコンサートも開催しました。

今回のオペラの題材である「こうもり」をテーマに、チェロ、ヴァイオリン、オーボエ・フルートによる演奏をお届けしました。

Vol.1 チェロ 2020.2/2



Vol.2 ヴァイオリン 2020.2/8



Vol.3 オーボエ、フルート 2019.2/23



奨学生一覽

(各分野五十音順)

ヴァイオリン／106人

青木 尚佳
青谷 友香里
アシュリー マリア アヤ
東 珠子
荒井 優利奈
安彦 千恵
伊賀 あや
石橋 幸子
泉原 隆志
礪 絵里子
糸井 真紀
伊藤 文乃
井上 奈央子
上野 明子
植村 太郎
植村 菜穂
植村 理葉
牛草 春
エリック・シューマン
尾池 亜美
王 中男
大江 馨
大岡 仁
大島 莉紗
大関 万結
大谷 玲子
岡崎 慶輔
岡本 誠司
小川 恭子
小野 明子
榎本 大進
加野 景子
神尾 真由子
神谷 未穂
川村 奈菜
木嶋 真優
岸本 萌乃加
北川 千紗
城戸 かれん
木村 悦子
清永 あや
日下 紗矢子
倉富 亮太
黒川 侑
郷古 廉
小林 啓成
小林 美緒
小林 美樹
佐橋 まどか
佐藤 久成
篠原 悠那

志満 直美
島田 真千子
島原 早恵
清水 有紀
白井 麻友
菅井 京子
鈴木 愛理
鈴木 舞
周防 亮介
高木 凜々子
滝 千春
瀧村 依里
島田 悠子
立上 舞
田中 晶子
田中 晶子
谷本 華子
玉井 菜採
千葉 水晶
辻 彩奈
坪井 夏美
土岐 祐奈
長尾 春花
中島 麻
中村 太地
成田 達輝
西川 茉莉奈
西澤 和江
二瓶 真悠
服部 百音
林 悠介
原 麻里亜
原田 亮子
福田 廉之介
藤江 扶紀
外村 理紗
前田 志乃
正戸 里佳
松川 暉
松田 理奈
三上 亮
村田 美英
毛利 文香
守屋 剛志
森山 まひる
安田 理沙
矢野 玲子
山根 一仁
梁 美沙
弓 新
湯本 亜美
吉江 美桜

吉田 南
米元 響子
渡邊 ゆづき

ヴィオラ／13人

赤坂 智子
有富 萌々子
大野 若菜
金丸 葉子
坂口 翼
杉田 恵理
瀧本 麻衣子
田原 綾子
中島 悦子
原 麻理子
牧野 葵美
山崎 智子
渡邊 千春

チェロ／38人

伊東 裕
伊藤 悠貴
上野 通明
植村 葉夏
山口 心一
遠藤 真理
岡本 侑也
奥田 なな子
香月 麗
加藤 文枝
門脇 大樹
上村 文乃
唐沢 安岐奈
熊澤 雅樹
佐々木 蘭望
笹沼 樹
佐藤 晴真
高木 慶太
辻本 玲
中木 健二
長谷川 彰子
林 裕
櫃本 瑠音
平野 朝水
藤井 泉
藤原 秀章
堀江 牧生
松山 翔子
マーク・シューマン
水野 優也
三井 静
峰本 更
宮田 大

森田 啓佑
山上 ジョアン 薫
山本 徹
横坂 源
渡邊 方子

クラシックギター／4人

谷辺 昌央
藤元 高輝
松本 大樹
山田 唯雄

ヴィオラ・ダ・ガバ／1人

酒井 淳

フルート／20人

阿部 礼奈
井坂 実樹
岩瀬 桐子
上野 星矢
大久保 彩子
久保 順
倉田 優
小山 裕幾
庄田 奏美
瀧本 実里
竹山 愛
中村 薫
萩原 貴子
藤井 香織
本宮 湖心
増本 竜士
森岡 有裕子
八木 瑛子
若林 かをり
渡邊 玲奈

オーボエ／4人

荒 絵理子
岡山 理絵
田代 奏子
本多 啓佑

クラリネット／10人

梅原 希枝
金子 平
小林 知世
小山 洋子
白子 正樹
辻本 聡子
中川 知美
原田 綾子
福田 さあや
吉田 誠

サクソフォン／2人

住谷 美帆

中島 諒

ファゴット／3人

小山 莉絵
中野 陽一郎
藤村 踊子

トランペット／2人

菊本 和昭
佐藤 友紀

トロンボーン／2人

清水 真弓
山本 浩一郎

ユーフォニウム／2人

安東 京平
佐藤 采香

打楽器／5人

池上 英樹
岩見 玲奈
省野 勢津子
通崎 睦美
福山 直子

ハープ／5人

景山 梨乃
シュレイファー 弓子
高野 麗音
林 千佳世
福井 麻衣

パイプオルガン／1人

椎名 雄一郎

チェンバロ／2人

北御門 はる
脇田 英里子

ピアノ／135人

浅野 未麗
有吉 亮治
五十嵐 薫子
石井 楓子
石川 武蔵
石田 啓明
石村 純
乾 絵美
今井 彰子
今田 篤
入江 一雄
岩本 恵理
梅村 知世
江澤 茂敏
江尻 南美
岡田 奏



大井 浩明
大崎 結真
太田 糸音
大西 真由子
岡本 麻子
奥田 晓仁
奥村 友美
小沢 麻由子
越知 晴子
小野田 有紗
海瀬 京子
梯 剛之
柏原 佳奈
加藤 大樹
加藤 洋之
加野 瑞夏
神野 千恵
河内 仁志
川崎 翔子
川島 基
川田 健太郎
河村 尚子
菊地 裕介
菊池 洋子
喜多 宏丞
清塚 信也
日下 知奈
工藤 奈帆美
久保 千尋
倉澤 杏菜
黒岩 航紀
黒田 哲平
小井土 文哉
高 実希子
壽 千明
小林 愛実
小林 有沙
小林 海都
齊藤 一也
阪田 知樹
坂本 真由美
崎谷 明弘
佐々木 宏子
佐竹 裕介
佐藤 卓史
佐藤 彦大
佐藤 麻理
佐藤 元洋
佐野 まり子
紫垣 英二
志鷹 美紗
釈迦郡 洋介

白川 多紀
菅野 雅紀
鈴木 謙一郎
住友 郁治
関本 昌平
芹澤 佳司
反田 恭平
高田 匡隆
高橋 礼恵
内匠 慧
田中 香織
田中 正也
田村 響
千葉 遥一郎
津嶋 啓一
津田 裕也
鶴見 彩
土居 知子
中尾 純
中桐 望
中島 彰
長瀬 賢弘
中元 千鶴
奈良 希愛
新美 光映
沼澤 淑音
野上 真梨子
萩原 麻未
橋本 尚
服部 慶子
花岡 克典
浜野 与志男
林田 麻紀
樋口 一朗
久末 航
日高 志野
平松 悠歩
福田 和子
藤田 真央
真隅 政大
松尾 久美
松岡 淳
松本 和将
丸山 耕路
丸山 瓜乃
萬谷 衣里
Elezovic MIA
三浦 友理枝
三戸 あけみ
三宅 麻美
宮下 彩子
宮田 理生

務川 慧悟
村田 理夏子
村松 珠美
森田 義史
矢島 愛子
山田 剛史
山本 亜希子
吉兼 加奈子
ティーテン 吉川 右希子
吉田 友昭
吉武 優
吉見 友貴
米津 真浩
李 早恵
脇岡 洋平
オルガン／2人
福本 茉莉
宗 かおり
声楽／59人
石井 教子
市原 愛
乾 麻里子
上杉 清仁
江口 輝博
大島 京子
岡田 昌子
加藤 史幸
加藤 麻衣
川島 幸子
川原 成子
木下 周子
木下 美穂子
木村 善明
木村 里花子
蔵田 みどり
小玉 晃
小林 沙羅
近藤 圭
崔 宗宝
坂本 知亜紀
志摩 大喜
清水 俊徳
周 江平
杉原 かおり
鈴木 愛美
田邊 織恵
谷口 伸
谷村 由美子
田村 麻子
趙 非
津國 直樹

辻 裕久
寺田 功治
田 大成
富岡 明子
中川 恵美里
中嶋 俊晴
中島 康晴
鳴海 真希子
林 佑子
深瀬 廉
藤木 大地
藤谷 佳奈枝
本田 智衣
又吉 秀樹
松島 理紗
松原 友
真野 路津紀
溝淵 悠理
峯島 望美
宮里 直樹
森野 美咲
山下 新吾
山本 美央
吉澤 淳
吉田 貴子
監 野流
李 恩敬
指揮／21人
粟辻 聡
石川 星太郎
伊藤 翔
垣内 悠希
川本 貢司
岸本 有理
鬼原 良尚
齊藤 一郎
阪部 慎太郎
篠崎 靖男
下野 竜也
杉本 優
橋 直貴
寺岡 清高
阪 哲朗
三ツ橋 敬子
村上 寿昭
村中 大祐
森 香織
森口 真司
森田 宏樹

作曲／21人
阿部 俊祐
稲森 安太己
今井 智景
北爪 裕道
木下 正道
小出 稚子
酒井 健治
坂田 直樹
塚本 瑛子
中川 佐織
夏田 昌和
朴 炳五
松宮 圭太
松本 直祐樹
ママツウメル
向井 響
向井 航
山口 紘
李 大軍
渡邊 愛
渡辺 裕紀子
教会音楽／1人
小山田 薫
音楽学／17人
金 士友
貞方 マキ子
周 耘
白石 悠里子
菅沼 起一
関本 菜穂子
園田 みどり
高野 裕子
東田 範子
戸祭 哲子
中村 伸子
西村 理
畑野 小百合
早坂 牧子
丸山 瑤子
村田 圭代
李 金叶
オペラ演出／4人
井原 広樹
郭 才銀
馬 金泉
森岡 純子

計 48人

(2020年3月現在)



ローム ミュージック フレンズ No.10

—ローム ミュージック ファンデーションの音楽文化支援情報誌—

発行 2020年3月

企画・発行：公益財団法人 ロームミュージックファンデーション

〒615-0044 京都市右京区西院西中水町1

TEL (075) 311-7710 FAX (075) 311-0089

<https://micro.rohm.com/jp/rmf/>

協 賛： **ローム株式会社**

この情報誌に掲載の写真・文章の無断転載を禁じます。

